

まちづくり市民意向調査結果及び 満足度分析結果

平成24年1月

登米市企画部企画政策課

目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査方法	1
(4) 回収状況	2
2. 調査結果	3
【問1 生活環境の満足度・重要度】	3
(1) 満足度・重要度の順位	5
●満足度の高かった上位5項目	5
●重要度が高かった上位5項目	5
●満足度の点数の上がり幅が大きかった上位5項目	5
●満足度の点数の下がり幅が大きかった上位5項目	5
(2) 満足度の分析	6
【問2 登米市の暮らしやすさ】	12
【問3 定住意向】	13
【問4 定住したい理由】	14
【問5 転居したい理由】	15
【問6 登米市の将来像】	16
【問7 地域発展に向けた重点施策】	17
【問8 土地整備や市街地開発の方向】	18
【問9 農地のあり方】	19
【問10 山林のあり方】	20
【問11 住宅地のあり方】	21
【問12 商業地のあり方】	22
【問13 工業地のあり方】	23
【問14 性別】	24
【問15 年代】	25
【問16 居住地】	26
【問17 職業】	27
【問18 通勤・通学先】	28
【問19 居住経験】	29

1 調査概要

(1) 調査目的

生活環境の満足度や施策の重要度、市の目指すべき方向性などについて市民の意識を把握するとともに、登米市総合計画に掲げたまちづくりの施策に係る進捗状況の管理に役立てる。

また、東日本大震災からの復興に向けて、本市震災復興計画に反映させることを目的として、併せて市民の意向を把握する。

(2) 調査内容

平成20年に実施したまちづくり市民意向調査を基に設問し、前回調査等の比較・分析を行ったものです。

● 日ごろの生活環境について	● 回答者の属性
生活環境の満足度・重要度 問1	性別 問14
登米市の暮らしやすさ 問2	年代 問15
● 今後の居住意向について	居住地 問16
定住意向 問3	職業 問17
定住したい理由 問4	通勤・通学先 問18
転居したい理由 問5	居住経験 問19
● これからのまちづくりについて	● まちづくりに関する自由意見
登米市の将来イメージ 問6	行財政改革について
地域発展に向けた重点施策 問7	まちづくりへの市民参加について
都市整備や市街地開発の方向 問8	上記以外のことについて
農地のあり方 問9	● 震災復興に関するアンケート
山林のあり方 問10	復興に向けた取り組みについて
住宅地のあり方 問11	
商業地のあり方 問12	
工業地のあり方 問13	

(3) 調査方法

調査方法	アンケート調査（行政区長による配付・回収）
調査対象	18歳以上の登米市民5,000人 （住民基本台帳より約6.8%を無作為に抽出）
調査期間	平成23年8月1日から8月17日まで

(4) 回収状況

回収率は、72.4%で、前回調査より7.8ポイントの減少となりました。
性別の回収率は、男性が66.0%、女性が72.8%となっています。
年代については、50代の回答が81.7%で前回同様高くなっています。

【性別】

	今回調査			前回(平成20年)調査			比較
	配布数	回収数	(回収率)	配布数	回収数	(回収率)	(回収率)
全体	5,000	3,620	(72.4%)	5,000	4,009	(80.2%)	-7.8%
男性	2,369	1,564	(66.0%)	2,478	1,758	(70.9%)	-4.9%
女性	2,631	1,916	(72.8%)	2,522	2,053	(81.4%)	-8.6%
無回答	—	140	—	—	198	—	—

【年代別】

	今回調査			前回(平成20年)調査			比較
	配布数	回収数	(回収率)	配布数	回収数	(回収率)	(回収率)
全体	5,000	3,620	(72.4%)	5,000	4,009	(80.2%)	-7.8%
10代	115	51	(44.3%)	114	60	(52.6%)	-8.3%
20代	557	310	(55.7%)	621	373	(60.1%)	-4.4%
30代	645	409	(63.4%)	593	464	(78.2%)	-14.8%
40代	613	428	(69.8%)	698	542	(77.7%)	-7.8%
50代	941	769	(81.7%)	1,042	904	(86.8%)	-5.0%
60代	822	661	(80.4%)	625	493	(78.9%)	1.5%
70代	731	537	(73.5%)	866	688	(79.4%)	-6.0%
80歳以上	576	326	(56.6%)	441	294	(66.7%)	-10.1%
無回答	—	129	—	—	191	—	—

【居住地別】

	今回調査			前回(平成20年)調査			比較
	配布数	回収数	(回収率)	配布数	回収数	(回収率)	(回収率)
全体	5,000	3,620	(72.4%)	5,000	4,009	(80.2%)	-7.8%
旧迫町	1,233	813	(65.9%)	1,224	906	(74.0%)	-8.1%
旧登米町	316	238	(75.3%)	321	251	(78.2%)	-2.9%
旧東和町	443	344	(77.7%)	452	372	(82.3%)	-4.6%
旧中田町	929	643	(69.2%)	921	660	(71.7%)	-2.4%
旧豊里町	397	278	(70.0%)	397	304	(76.6%)	-6.5%
旧米山町	605	397	(65.6%)	610	485	(79.5%)	-13.9%
旧石越町	329	255	(77.5%)	328	243	(74.1%)	3.4%
旧南方町	523	378	(72.3%)	518	420	(81.1%)	-8.8%
旧津山町	225	154	(68.4%)	229	179	(78.2%)	-9.7%
無回答	—	120	—	—	189	—	—

2. 調査結果

問1 生活環境の満足度・重要度

今回実施した調査の結果、満足度は全体で2.47となり、前回と比較して0.09ポイント増加した。

各設問事項では、「消防・救急救助体制の充実」の2.83が最も高く、これに「ゴミ減量化・資源リサイクルの推進」が2.80、「保健・検診サービスの充実」及び「交通安全の推進」の2.78が続いている。満足度が最も低かったのは「雇用対策・起業支援」で2.03。続いて「医療機関の充実」の2.07、「救急医療体制の充実」の2.16となっている。

前回の調査と比べると、「社会保障の充実」が0.49ポイント増加している。また、「道路の整備」が0.12ポイント減少している。

重要度は、全体で3.22となり、前回と比較して0.01ポイント増加した。

各設問事項では、「救急医療体制の充実」の3.78が最も高く、これに「医療機関の充実」の3.75が続いており、『安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり』に係る指標が上位を占めている。重要度が最も低かったのは、「文化・芸術活動の推進」で2.76だった。続いて「地域間交流や国際交流の推進」の2.81、「スポーツ・レクリエーションの振興」の2.83と『豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり』に係る指標が占めた。

前回の調査と比べると、「観光の振興」が0.60ポイント増加している。また、「雇用対策・起業支援」が0.46ポイント減少している。

※問1については、下式により生活環境指標ごとに回答を点数化（加重平均）し、分析する。なお、下式で算定した結果、点数が2.50より高ければ高いほど満足（重要）、一方、2.50より低ければ低いほど不満（重要でない）という意見が多いと分析・整理される。

$$\text{点数} = \frac{\text{「満足（重要）」（票数）} \times 4 + \text{「ある程度満足（やや重要）」（票数）} \times 3 + \text{「あまり満足（重要）でない」（票数）} \times 2 + \text{「満足（重要）でない」（票数）} \times 1}{\text{「満足（重要）」} \sim \text{満足（重要）でない」回答総数（票数）} \quad \text{※無回答、無効を除く}$$

基本方向	事項	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
いのち あるま ちづく りする お	1 自然環境の保全	2.66	3.23	2.50	3.23	0.16	0.00
	2 自然環境の活用(又は創造)	2.44	3.09	2.30	3.08	0.14	0.01
	3 上水道の推進	2.61	<u>3.70</u>	2.54	<u>3.65</u>	0.07	0.05
	4 下水道の推進	<u>2.73</u>	3.48	<u>2.67</u>	3.44	0.06	0.04
	5 公園・緑地	2.53	3.00	2.43	2.99	0.10	0.01
	6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	<u>2.80</u>	3.46	<u>2.65</u>	3.50	0.15	▲0.04
	7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	2.57	3.37	2.39	3.52	0.18	▲0.15
	8 地球温暖化対策への取り組み	2.35	3.47	2.17	3.50	0.18	▲0.03
まを ちづく りした 活みの ある	9 農業の振興	2.33	3.38	2.08	3.41	0.25	▲0.03
	10 林業の振興	2.39	3.04	2.25	3.02	0.14	0.02
	11 商業の振興	2.19	3.22	2.00	3.17	0.19	0.05
	12 工業の振興	2.19	3.35	1.95	3.33	0.24	0.02
	13 雇用対策・起業支援	2.03	2.97	1.86	3.43	0.17	▲0.46
	14 観光の振興	2.24	3.48	2.15	2.88	0.09	0.60
く り 安全 に安 心し て暮 らせ るや すら ぎの ある ま ち づ く り	15 保健・検診サービスの充実	<u>2.78</u>	3.50	2.56	3.52	0.22	▲0.02
	16 医療機関の充実	2.07	<u>3.75</u>	1.77	<u>3.80</u>	0.30	▲0.05
	17 救急医療体制の充実	2.16	<u>3.78</u>	1.87	<u>3.81</u>	0.29	▲0.03
	18 社会保障の充実	2.28	<u>3.63</u>	1.79	<u>3.71</u>	0.49	▲0.08
	19 地域福祉の推進	2.47	3.33	2.29	3.35	0.18	▲0.02
	20 児童福祉、子育て支援の充実	2.55	3.43	2.35	3.47	0.20	▲0.04
	21 高齢者福祉の充実	2.55	3.46	2.30	3.48	0.25	▲0.02
	22 障害者福祉の充実	2.54	3.36	2.35	3.34	0.19	0.02
	23 消防・救急救助体制の充実	<u>2.83</u>	3.58	<u>2.68</u>	<u>3.57</u>	0.15	0.01
	24 風水害、地震などの自然災害対策	2.46	<u>3.59</u>	2.45	3.51	0.01	0.08
	25 防犯対策の推進	2.50	3.42	2.37	3.41	0.13	0.01
	26 交通安全の推進	<u>2.78</u>	3.34	<u>2.70</u>	3.30	0.08	0.04
	27 消費生活の安定と向上	2.49	3.03	2.31	3.09	0.18	▲0.06

基本方向	事 項	今回調査		前回（平成20年）調査		比 較	
		満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
くる ゆ と り の 快 適 に 暮 ら せ づ	28 計画的な市街地の整備	2.28	3.09	2.18	2.99	0.10	0.10
	29 居住環境の整備	2.34	3.28	2.29	3.18	0.05	0.10
	30 良好な町並み、景観の形成	2.48	2.93	2.43	2.84	0.05	0.09
	31 道路の整備	2.38	3.31	2.50	3.10	▲0.12	0.21
	32 バスなどの公共交通機関の充実	2.34	3.11	2.26	3.12	0.08	▲0.01
	33 地域情報化の推進	2.45	2.97	2.38	2.84	0.07	0.13
の ま ち づ く り と 個 性 を 育 む ふ れ あ い	34 幼児教育の充実	2.61	3.35	2.49	3.37	0.12	▲0.02
	35 小・中学校教育の充実	2.66	3.48	2.47	3.52	0.19	▲0.04
	36 小・中学校施設の整備	2.59	3.45	2.55	3.40	0.04	0.05
	37 生涯学習の充実	2.60	3.06	2.50	3.07	0.10	▲0.01
	38 スポーツ・レクリエーションの振興	2.69	2.83	2.63	2.79	0.06	0.04
	39 青少年の健全育成	2.57	3.19	2.47	3.20	0.10	▲0.01
	40 地域間交流や国際交流の推進	2.56	2.81	2.53	2.70	0.03	0.11
	41 文化・芸術活動の推進	2.59	2.76	2.54	2.69	0.05	0.07
	42 文化財等の保護・継承	2.66	2.94	2.63	2.88	0.03	0.06
協 働 の ま ち づ く り を 生 か し た	43 市政への市民参加	2.42	3.07	2.34	3.03	0.08	0.04
	44 市政に関する情報提供	2.61	3.18	2.51	3.14	0.10	0.04
	45 男女共同参画社会の推進	2.56	2.85	2.49	2.79	0.07	0.06
	46 地域の自治・コミュニティ活動の推進	2.63	2.96	2.56	2.91	0.07	0.05
	47 調和と均衡ある地域の発展	2.52	2.90	2.44	2.90	0.08	0.00
	48 行財政改革の推進	2.38	3.27	2.19	3.34	0.19	▲0.07
	49 市政運営での連携の推進	2.40	3.27	—	—	—	—
分 野 別 平 均	人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	2.59	3.35	2.57	3.40	0.02	▲0.05
	大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	2.23	3.24	2.05	3.21	0.18	0.03
	安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	2.50	3.48	2.34	3.52	0.16	▲0.04
	便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	2.38	3.12	2.38	3.02	0.00	0.10
	豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	2.61	3.10	2.54	3.10	0.07	0.00
	市民の創造力を生かした協働のまちづくり	2.52	3.04	2.42	3.04	0.10	0.00
全平均	2.47	3.22	2.38	3.21	0.09	0.01	

※表中の下線付き数字は、点数の高い項目(上位5項目)を表している。

※今回の調査項目No.49は、新規項目のため前回の調査項目と比較するデータはない。

※分野別平均及び全体平均の数値は、今回と前回で比較できる調査項目の数値のみを用いて算出している。

(1) 満足度・重要度の順位

●満足度の高かった上位5項目

() 内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	23. 消防・救急救助体制の充実 (2.83)	6. ゴミ減量化・資源リサイクルの推進 (2.80)	26. 交通安全の推進 (2.78)	15. 保健・検診サービスの充実 (2.78)	4. 下水道の推進 (2.73)
前回	26. 交通安全の推進 (2.70)	23. 消防・救急体制の充実 (2.68)	4. 下水道の推進 (2.67)	6. ゴミ減量化・資源リサイクルの推進 (2.65)	42. 文化財等の保護・継承 (2.63)

●重要度が高った上位5項目

() 内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	17. 救急医療体制の充実 (3.78)	16. 医療機関の充実 (3.75)	3. 上水道の推進 (3.70)	18. 社会保障の充実 (3.63)	24. 風水害・地震などの自然災害対策 (3.59)
前回	17. 救急医療体制の充実 (3.81)	16. 医療機関の充実 (3.80)	18. 社会保障の充実 (3.71)	3. 上水道の推進 (3.65)	23. 消防・救急救助体制の充実 (3.57)

●満足度点数の上がり幅が大きかった上位5項目

() 内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	18. 社会保障の充実 (0.49) 【前回1.79→今回2.28】	16. 医療機関の充実 (0.30) 【前回1.77→今回2.07】	17. 救急医療体制の充実 (0.29) 【前回1.87→今回2.16】	21. 高齢者福祉の充実 (0.25) 【前回2.30→今回2.55】	9. 農業の振興 (0.25) 【前回2.08→今回2.33】
前回	44. 市政に関する情報提供 (0.28) 【前々回2.23→前回2.51】	26. 交通安全の推進 (0.26) 【前々回2.44→前回2.70】	24. 風水害、地震などの自然災害対策 (0.26) 【前々回2.19→前回2.45】	4. 下水道の推進 (0.15) 【前々回2.52→前回2.67】	32. バスなどの公共交通機関の充実 (0.13) 【前々回2.13→前回2.26】

●満足度点数の下がり幅が大きかった上位5項目

() 内は点数

	1位	2位	3位	4位	5位
今回	31. 道路の整備 (▲0.12) 【前回2.50→今回2.38】	※ 24. 風水害、地震などの自然災害対策 (0.01) 【前回2.45→今回2.46】	※ 42. 文化財等の保護・継承 (0.03) 【前回2.63→今回2.66】	※ 40. 地域間交流や国際交流の推進 (0.03) 【前回2.53→今回2.56】	※ 36. 小中学校施設の整備 (0.04) 【前回2.55→今回2.59】
前回	16. 医療機関の充実 (▲0.54) 【前々回2.31→前回1.77】	17. 救急医療体制の充実 (▲0.34) 【前々回2.21→前回1.87】	9. 農業の振興 (▲0.31) 【前々回2.39→前回2.08】	11. 商業の振興 (▲0.30) 【前々回2.30→前回2.00】	21. 高齢者福祉の充実 (▲0.25) 【前々回2.55→前回2.30】

※今回の調査では、満足度点数が下がった項目は1項目のみだったため、2位以下には「満足度点数の上がり幅が小さかった項目」を掲載しています。

(2) 満足度の分析

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
人と自然が共生するうるおいのあるまちづくり	1 自然環境の保全	・自然緑地・水辺環境の保全 ・森林の公益的機能の維持・増進 ・動植物の保護	市民生活部(環境課)	2.66	2.50	0.16	環境教育事業を推進していることが増加につながったものと考えられる。	環境教育事業を引き続き推進する。
			産業経済部(農林政策課)				間伐等の適正な森林施業の実施や里山再生事業、市民参加の新たな森林づくり植樹祭の実施により広葉樹の造林を行うなど健全な森林の育成を図っているためだと考えられる。	市有林・私有林共に、各種補助制度も活用して、適正な森林施業を実施し、健全な森林の育成を図る。
	2 自然環境の活用(又は創造)	・自然に親しめる空間・施設の整備 ・自然を学べる場・機会の創出	市民生活部(環境課)	2.44	2.30	0.14	環境市民会議と協働し、環境教育事業の啓発や、環境教育リーダー育成活動に取り組みにより、増加につながったものと考えられる。	自然を学ぶ機会の創出に取り組みること、環境教育事業を推進すること。また、環境市民会議との連携を推進する。
			産業経済部(農林政策課)				森林セラピー基地に認定されている登米森林公園など市内森林公園の適正な整備、管理運営を行い、多くの市民に利用されているためだと考えられる。	登米森林公園へのアクセス向上を図るため、ふるさと林道登米東和線開設工事を実施するほか、水不足を解消するため、給水装置の設置を行うなど森林公園の適正な整備を推進する。
	3 上水道の推進	・良質な水道水の供給 ・災害に強い水道水の安定供給 ・水道料金の抑制と効率的な経営	水道事業所	2.61	2.54	0.07	東日本大震災により一時的な断水を生じたものの、他の自治体や事業者と比較して、早期に給水再開をしたこと及び平成21年度に策定した「登米市地域水道ビジョン」で掲げる基本理念「市民が安心して暮らせる市の責任による水道事業の確立」に沿って事業経営を進めてきた成果が評価されたものと考えられる。	市民に水道事業を理解してもらう取り組みを行い、水道事業の「見える化」を行う。
	4 下水道の推進	・下水道事業(公共・農集排・合併浄化槽)の推進 ・し尿の適正な収集、運搬、処理	市民生活部(衛生センター)	2.73	2.67	0.06	大震災時に水洗トイレが使えず、外トイレを久しぶりに使用したので、汲み取り作業を依頼されるケースが数多くあった。下水に移行された家庭でも、基本登録は抹消していなかったため、要望にすぐ応えられたことから、評価が上がったものと考えられる。	各行政区毎に集約して行う計画収集のほか、臨時の作業依頼に対し、概ね翌日までは対応できる現在の体制を当面維持する。 ※行政評価の外部評価でも指摘されたことですが、下水の普及促進のためにも、「汲み取り」は縮小均衡の位置づけにあるべきものと思われる。
			建設部(下水道課)				下水道事業の拡張に伴い、市内における水洗化率の上昇にあわせ、自然環境・生活環境の保全意識も高まり、公共用水域への排水対策の認識や理解が浸透してきたものと考えられる。	下水道事業の早期完成と下水道への接続を促進する。下水道接続の支援事業の充実を図る。
	5 公園・緑地	・公園や街路樹等の美化、管理 ・地域特性を生かした公園・緑地の整備 ・市民との協働による緑化活動の推進	市民生活部(子育て支援課)	2.53	2.43	0.10	児童遊園20か所の点検を実施し、維持修繕に努めてきたためと考えられる。	遊具の老朽化に対応した計画的な更新と利用状況に応じた施設の見直し。
産業経済部(農村整備課)			地元行政区及び業者に管理を委託し定期的に除草作業等を行い、地域住民が利用できる環境整備を進めているためと考えられる。				地域住民のニーズを把握し、公園の美化管理や遊具施設の充実を図る。	
建設部(住宅都市整備課)			前回調査以降、河川歴史公園等新たな公園の設置や既存公園へのトイレ整備を行っており、これらの事業効果により微増していると考えられる。				利用者及び地域の意向を事業に取り込み、地域の特性に合った事業内容とする。	
6 ゴミ減量化・資源リサイクルの推進	・4R活動(ゴミになるものを拒む、減らす、再使用する、再生させる)の推進 ・分別収集の徹底 ・生ゴミ等堆肥化・リサイクルの推進	市民生活部(環境課)	2.80	2.65	0.15	これまでゴミとして収集していたものの中から資源ゴミを見出し、資源ゴミ回収品目を増やしている。廃食油回収においても回収場所を増やすなどにより向上したものと考えられる。	資源ゴミ回収品目を追加するとともに、資源リサイクルの取組がゴミ減量につながっていることの情報提供の機会を増やしていく。 4R活動への参加を呼び掛け意識の醸成を図る。	
7 ゴミ処理の適正化・公害の未然防止	・ゴミ収集体制の充実 ・ゴミの不法投棄、騒音、水質など公害対策	市民生活部(環境課、クリーンセンター)	2.57	2.39	0.18	ゴミ収集については、集積所収集、ステーション収集、各戸収集を行っている。市内全域が、可燃ゴミ2回収集となっていることから、市民一人ひとりが住みやすいと感じられたと考えられる。	市民の資源とごみの分別の意識向上を推進する。	
8 地球温暖化対策への取り組み	・省エネルギー・新エネルギーに関する普及啓発 ・エコオフィス運動の推進 ・BDF等クリーンエネルギーの活用	市民生活部(環境課)	2.35	2.17	0.18	住宅用太陽発電システム設置事業や節電、クールビズの取り組みによるものと考えられる。	環境教育事業を推進するとともに、環境市民会議と連携しながら地球温暖化対策への理解を広げる。また、太陽発電など新エネルギーの普及や節電、クールビズに継続して取り組む。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
大地の恵みと人の技を生かした活力のあるまちづくり	9	農業の振興 ・農業経営体の強化 ・農業生産の振興・消費の拡大 ・農業関連産業の推進	産業経済部(農林政策課、農産園芸畜産課、農村整備課)	2.33	2.08	0.25	稲作については、環境保全型農業の推進に必要な条件整備、水田農業の構造改革や水田を活用した作物の産地づくりに必要な条件整備、作業効率の改善や農地集積、環境に配慮した農業経営者への支援、直播技術拡大支援、環境保全米のステップアップのため生物多様性関係事業を用意し、きめ細かな支援を行った。 園芸は、園芸施設、作業省力化用機械等の導入事業の支援、園芸作物生産安定対策事業、安全・安心な登米市産農産物の栽培意識の醸成を推進した。 畜産においては、担い手育成繁殖素牛、肥育素牛の導入振興対策、経営規模拡大等の各種支援を行ったことが要因と考えられる。 また、「食の安全・安心」な農産物をテーマにした登米市の農業が、徐々に消費者に浸透しており、「農業生産の振興・消費の拡大」の分野がPR活動等によって推進されていることが実感できるようになった結果と考えられる。 ほ場整備事業の推進により農地集積も推進されていることから「経営体の強化」が図られていることも反映されたものと考えられる。	農業生産の振興については、特にTPP問題の対応や対策などの問題解決の取り組みを強化し、農家の不安解消に努める。また、消費拡大については、放射能による風評被害の対応を強化し、「安全・安心」を強力にPRする取り組みを図る。 消費者の求める、安全・安心な農畜産物の供給を図るため、生産者ニーズに的確に応え、「登米ブランド」の確立を推進するなど産地間競争力の強化につながるような支援が必要である。また、CO2削減や生態系保全の数値化など、新たな高付加価値を創出する環境保全型農業のステップアップに取り組む。 市内の農業関連団体との連携を強化し、消費者を意識した農業生産に加え、加工・流通・販売を一貫して行う農業経営体を支援し、6次産業化を推進する。 環境に配慮した農業への取り組みを、インターネットで動画配信し、消費者に見える形で安全・安心を提供することで、登米市農産物のファン(定期購入者)を確保し、少数の消費者でも対応できる流通・販売体制を整備する。
	10	林業の振興 ・経営の近代化と地域産材の産地形成 ・地域産材、特用林産物の生産性向上と販路の拡大 ・森林の多面的機能の保全	産業経済部(農林政策課)	2.39	2.25	0.14	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施業を実施し、健全な森林の育成を推進していることや里山再生事業による広葉樹林の育成、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を図るなど、地域林業が活性化されていることが要因として考えられる。	市有林・私有林共に間伐等の適正な森林施業を実施し、健全な森林の育成を推進することや里山再生事業による広葉樹の育成等様々な森林の整備、地域材需要拡大支援事業により木材需要拡大を図るなど、地域林業の活性化に向けて積極的に取り組む。
	11	商業の振興 ・事業者への支援体制の強化 ・商店街の活性化	産業経済部(商工観光課)	2.19	2.00	0.19	東日本大震災により店舗や事務所等に甚大な被害を受けた事業者は、景気の低迷などにより震災前も厳しい経営を強いられていた。 このような実情から、震災で被災した事業者を支援するため、「登米市被災事業者等再建支援事業」や「登米市中小企業災害復旧資金利子助成金」などを創設。県などの補助事業との連動も図るなど、事業者への支援を実施したためと考えられる。	商業については今後も支援体制の整備が必要と考えられる。 このことから、登米市商店街活性化計画の見直しとともに、今後の商業及び商店街の方向性について、専門家の意見を聞きながら、関係機関と連携を図り策定する。
	12	工業の振興 ・既存企業や起業家への支援 ・企業誘致の推進	産業経済部(商工観光課)	2.19	1.95	0.24	長沼工業団地への製造業の誘致や、コールセンター誘致など企業誘致の実績があったためと考えられる。	企業誘致の推進については、企業立地セミナーへの参加や、今後実施する企業活動動向調査等により企業訪問等を行うなど、投資環境提案等の誘致活動を積極的に行う。 既存企業への支援については、国等の融資制度や、新たな事業を展開する場合の補助制度等を紹介するほか、新たに作成した市内企業ガイドマップを活用し、ビジネスマッチング開催など、受注機会の拡大による既存企業への支援を実施する。 また、緊急雇用対策事業の活用により、既存企業支援のほか、起業家支援に結び付けるなど、様々な工業振興策に取り組む。
	13	雇用対策・起業支援 ・雇用機会の確保・創出 ・アグリビジネス等の推進 ・新産業の育成支援	産業経済部(商工観光課)	2.03	1.86	0.17	登米市において、有効求人倍率が前回調査(平成20年度)時の年平均0.44から今回調査(23年8月)時の0.62と上がっていることから、緊急雇用対策事業の積極的実施や、企業誘致による新たな立地企業の雇用の確保が見込まれるなど、雇用面の環境改善を反映したものと考えられる。	雇用機会の創出を目的として、企業誘致の推進を図るため企業立地セミナーへの参加や、今後実施する企業活動動向調査等により企業訪問等を行う。また、投資環境提案等の誘致活動を行うとともに、既存企業への支援として、ビジネスマッチング開催による受注機会の拡大や人材確保支援事業などの企業活動支援事業の実施による雇用機会の確保など、さまざまな雇用対策を積極的に行う。 起業支援を図るため、ビジネスチャンス事業を活用したアグリビジネス推進のほか、緊急雇用対策事業を活用しながら、新たな起業支援策を展開する。
14	観光の振興 ・滞在型観光の推進 ・観光案内機能の強化 ・グリーンツーリズム等の推進	産業経済部(商工観光課)	2.24	2.15	0.09	三陸自動車道路「登米IC」「登米東IC」の開通により、登米市へのアクセスが容易になったことによる観光交流人口の増加、大型の観光誘導看板の設置などで交通面での強化が図られたためと考えられる。 また、平成20年の仙台宮城観光デスティネーションキャンペーンの継続事業として実施された仙台宮城伊達旅キャンペーン等による誘客の取り組み、ご当地メニュー「油麩井(あぶらぶどん)」の全国的な知名度アップなども要因としてあげられる。	仙台宮城観光デスティネーションキャンペーン等の実施に伴い、積極的な情報公開とPRを行い観光客の誘致を図る。 伊達な広域観光推進協議会への参画や平泉を視野に入れた県際連携、大崎・栗原との県北部会、復興を目指す沿岸部等との観光連携等を推進し、観光客の誘致を図る。 また、市内観光公園の整備と観光施設の機能向上を図るとともに、登米市観光物産協会との連携、観光ボランティア等の強化に努める。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	15	保健・検診サービスの充実 ・生活習慣病予防のための健康づくり ・心の健康づくり ・母と子の健康づくり	市民生活部(健康推進課)	2.78	2.56	0.22	検診事業にあつては受診率向上を目指し、積極的な周知に努めた。また、自殺予防対策や食育推進事業等にあつては、関係機関だけでなく市民も一緒に活動を展開してきた。啓発活動については、紙面等の啓発と共に、保健活動推進員をはじめ、受講者自身にも、伝達してもらうことを意識的に行ったことにより広く周知されたことが要因と考えられる。	事業実施後に、個別の反応を捉えるように努め、関係機関での事業、自主活動、地区の活動につなげられるよう努める。さらに、地域の健康課題の把握とともにそのニーズに即した企画を提供していく。同時に、関わるスタッフの地区の課題及び地区情報の共有、スキルの向上に努める。
	16	医療機関の充実 ・市立病院、民間病院及び診療所間の連携強化	医療局(企画総務課)	2.07	1.77	0.30	地域医療連携室が中心となり、医療・福祉の連携が図られてきたことが、徐々にではあるが認知されてきたことや、市民病院耐震化等の施設整備の充実、市民病院を核とした医師会・開業医との連携による災害初期対応等が評価されたものと考えられる。	引き続き医師の招聘に努めながら、医師の充足率向上を図るとともに、登米医療圏内の医療機関の連携強化及び患者のための円滑な医療・福祉・介護の連携体制の充実を図る。
	17	救急医療体制の充実 ・休日急患当番医制の充実 ・休日・夜間の24時間対応救急医療体制の充実	市民生活部(健康推進課) 医療局(企画総務課)	2.16	1.87	0.29	休日当番医についての情報提供について、広報・新聞だけでなくモバイルやFM等を活用したことからタイムリーな周知が可能となったこと、休日急患当番医利用者の動向から、市内の開業医が担当する一次診療が増えより重篤な方が受診する二次診療が減っているという現状があり、病状に合わせて受診している状況となり、満足度につながったと考えられる。 医師不足は全国的な社会問題となっており、登米医療圏だけで解決できる問題ではないことから、現状の救急医療体制を堅持し、サービス低下を招かない取り組みへの理解が深まったものと考えられる。	小児科・産科医師の確保を図る必要がある。 救急医療環境向上のため市民病院救急外来棟を整備するとともに、救急患者の受け入れ方針の明確化を図る。
	18	社会保障の充実 ・国民健康保険制度の適正な運用 ・後期高齢者医療制度の適正な運用 ・国民年金制度の適正な運用	市民生活部(国保年金課)	2.28	1.79	0.49	平成20年度から実施された後期高齢者医療制度について、市民に理解され浸透しつつあると考えられる。	医療制度や国民年金制度の内容を理解していただくため、周知・啓発に努める。
	19	地域福祉の推進 ・地域全体で支え合う福祉体制の整備 ・地域福祉に関わる組織・人材の育成、強化	市民生活部(長寿介護課)	2.47	2.29	0.18	平成20年度から実施している地域ふれあいコミュニティー事業による世代間交流など、協働で支えあうまちづくりの取り組みや市民意識の向上を図るための福祉に関する学習、情報提供などが評価されたと考えられる。	登米市地域福祉計画に基づく地域福祉の推進に向けて地域ふれあいコミュニティーづくりに努める。
	20	児童福祉、子育て支援の充実 ・保育の充実強化 ・放課後児童対策の充実 ・子育て支援の充実	市民生活部(子育て支援課)	2.55	2.35	0.20	保育所では、待機児童解消のための定員増を図ってきた。また、平成22年度から「保育所入所の円滑化」の制限が撤廃され4月1日から入所制限がなくなった。また、放課後児童クラブの未設置地域への整備と定員増を図ってきたことなどが評価されたと考えられる。	老朽化している施設を修繕し保育環境の整備を図るとともに、職員の研修等を実施し保育の質の向上を図る。 児童クラブと子ども教室の連携を図り、放課後の児童の安全で安心な居場所を確保する。 在宅での子育て支援や多様化する保育需要の利用支援に対応するため、ファミリー・サポート・センター事業等の充実を図る。
	21	高齢者福祉の充実 ・介護予防と生きがいづくりの推進 ・高齢者福祉施設の整備 ・高齢者の生活環境の整備	市民生活部(長寿介護課)	2.55	2.30	0.25	多様化した高齢者のニーズに応えるため、サービスの質の確保向上を図り、高齢者が地域社会の中で生活できる環境の整備を進めてきたことから、評価されたものと考えられる。	介護予防のためにも、生きがいを持って社会参加できる環境の整備と高齢者福祉の増進を図るための施設整備に努める。
	22	障害者福祉の充実 ・障害者福祉サービスの充実 ・自立と就労、地域生活移行への支援 ・家庭への支援と交流の場の確保	市民生活部(生活福祉課)	2.54	2.35	0.19	障害者自立支援法の福祉サービス体系移行も進み、提供体制が充実した中でのサービス内容などを考慮し、整ってきていることを感じてきた結果と考えられる。	利用者のニーズにタイムリーに対応できるサービス体制に取り組む。在宅サービスや施設を利用してのサービスを安定して提供できるよう努める。
	23	消防・救急救助体制の充実 ・消防団活動の充実 ・消防施設・車両整備、高度救急自動車の配置 ・救急救命士の養成、応急手当の普及啓発	消防本部(消防総務課、警防課)	2.83	2.68	0.15	全出張所に高規格救急車を配置したことにより、救急車の現場到着時間が短くなったこと。また、東日本大震災での消防団、消防署の活動等が評価されたものと考えられる。	継続した救急救命士の養成を図りより多くの事業に的確迅速な対応ができる態勢に努める。
	24	風水害、地震などの自然災害対策 ・防災訓練、防災パトロールの実施 ・自主防災組織の結成、育成、強化 ・治水・砂防・治山対策による自然災害の未然防止	総務部(防災課)	2.46	2.45	0.01	自主防災組織の結成率が100%となり、東日本大震災時に被害状況調査や、安否確認、避難所の開設等を行ったことなどが要因と考えられる。	自主防災組織がより充実した活動を展開できるように、活動に必要な資機材の整備を促進するとともに、研修会等を開催する。

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
安全に安心して暮らせるやすらぎのあるまちづくり	25 防犯対策の推進	・防犯組織の育成・関係団体との連携 ・防犯施設の整備 ・防犯教育、意識の啓発	市民生活部(市民生活課)	2.50	2.37	0.13	防犯指導員隊が旧町単位に組織され、定期的に防犯パトロールを展開し、「犯罪の起きにくい社会づくり推進協議会」や「防犯協会」等と連携を図りながら、防犯に関する情報提供や防犯活動を展開してきたことが、認知されたものと考えられる。防犯施設の整備については、149基のLED防犯灯を新設しているほか、修繕についても速やかな対応を心がけていることから、前回の満足度を上回ったものと考えられる。	全市的な啓発活動を推進するために、さらに「犯罪の起きにくい社会づくり推進協議会」や「防犯協会」等と連携を図りながら事業を推進する。防犯灯設置補助基準を定め、お互いの協働という立場で、防犯対策に取り組む。
	26 交通安全の推進	・交通安全関係団体との連携、交通安全パトロール ・交通安全施設の整備 ・交通安全教育、意識の啓発	市民生活部(市民生活課)	2.78	2.70	0.08	市が実施している事業(高齢者運転免許自主返納支援事業、死亡事故ゼロ表彰、運転免許取得者教育(認定教育)支援事業)や啓発活動だけではなく、登米市交通安全対策協議会を核とした交通安全関係団体が、交通安全週間等における重点的な事業の実施及び定期・不特定の啓発活動を行ったことにより、交通安全意識が広く市民に浸透している表れと考えられる。	児童・生徒及び高齢者に対する交通安全教育活動に更に力を傾注し、市民の交通安全に対する意識の高揚を図る。
	27 消費生活の安定と向上	・相談体制の充実 ・消費者問題に関する啓発活動の充実	産業経済部(商工観光課)	2.49	2.31	0.18	平成20年度から消費生活相談員を3名体制としており、その成果が現れていると思われる。また、市町村消費者行政活性化基金を活用した各種事業により、市民生活の安心安全を守るための各種事業を実施するとともに、消費者情報の受信を迅速にできる体制が整備されたことによるものと考えられる。	今回の調査で満足度が上がったことを受け、今後、市民との協働事業など一体となった取り組みを推進する。
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	28 計画的な市街地の整備	・計画的な土地利用の推進 ・都市計画の見直し ・魅力ある中心市街地の整備、再生	建設部(住宅都市整備課)	2.28	2.18	0.10	前回調査後に都市計画区域の見直しが行われたが、具体的な土地利用の見直し等はこれからであるため、満足度が微増している要因は不明である。	不足している道路・公園の確保、中心市街地の活性化に向けた取り組み、新たな用途地域の設定による土地利用の明確化を行う。
	29 居住環境の整備	・公営住宅の整備、維持・改善 ・生活道路や身近な公園、下水道整備 ・耐震診断の実施	建設部(道路課)	2.34	2.29	0.05	砂利道の舗装整備を実施したためと考えられる。	今後とも継続するべきである。
			建設部(住宅都市整備課)				公営住宅の計画的な改修により住環境の整備を行ったこと。雇用促進住宅を取得し定住促進住宅として新たに提供を行い、住環境の整備を行ったこと。前回調査以降、河川歴史公園等新たな公園の設置や既存公園へのトイレ整備を行っており、これらの事業効果により微増していると考えられる。	大規模な修繕は改修計画を策定し、年次計画により実施。また入居者からの要望による修繕については早急な対応を行う。利用者及び地域の意向を事業に取り込み、地域の特性に合った事業内容とする。
			建設部(下水道課)				下水道事業の拡張に伴い、市内における水洗化率の上昇に合わせ、自然環境・生活環境の保全意識も高まり、公共用水域への排水対策の認識や理解が浸透してきたと考えられる。	下水道事業の早期完成と下水道への接続を促進する。下水道接続の支援事業の充実を図る。
	30 良好な町並み、景観の形成	・地域特性に応じた美しい景観の形成 ・環境美化の推進	建設部(住宅都市整備課)	2.48	2.43	0.05	前回調査後、景観計画が策定されたことにより、満足度がアップしたと考えられる。	景観計画を具体化するための、景観条例の制定を行う。
31 道路の整備	・市域の骨格を形成する幹線道路の整備 ・アクセス道路の整備 ・生活関連道路の整備	建設部(道路課)	2.38	2.50	▲0.12	現在の総合計画で位置付けられている事業については、各地域の政策事業及び旧町からの持込事業を中心として展開されているが、合併以降の要望に対応し切れていない状況にあると考えられる。また、震災以降の道路復旧の遅れも要因として考えられる。	現在の総合計画で位置付けられている事業の内、幹線道路及び緊急時の輸送道路を早急に整備すること、地域のニーズに合わせた道路網の整備に取り組む。	
32 バスなどの公共交通機関の充実	・バス交通の充実 ・鉄道利用の利便性向上	企画部(市民活動支援課)	2.34	2.26	0.08	市民バスの運行経路及び運行時間など市民ニーズにできる限り沿い、JRや高速バスに接続し、気軽に乗れるワンコインバスとして運行してきたためと考えられる。	市民ニーズを定期的に把握する仕組みづくりと運行計画への反映。高齢者・障害者がより利用しやすい方策の検討。	
		建設部(住宅都市整備課)				都市計画による交通施策で実施しているものがないことから、満足度の微増は他の要因によるものと考えられる。	都市交通計画マスタープラン中の公共交通ネットワーク計画に示す、以下の8つの施策を推進する。 ・主要な市街地エリアを連絡する幹線バス軸の形成 ・中心部と外縁部を連絡するバス軸の形成 ・田園・山間エリアにおける公共交通サービスの提供 ・域内移動の足となるバス交通の確保 ・仙台方面の高速バスの維持・拡充 ・JR東北本線、気仙沼線の維持・拡充 ・市の玄関口としての鉄道駅の整備 ・公共交通機関の連携強化	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
便利で快適に暮らせるゆとりのあるまちづくり	33 地域情報化の推進	・情報通信基盤の整備 ・ICT化の推進 ・公共施設間情報ネットワークの構築	企画部(企画政策課)	2.45	2.38	0.07	平成22年度に実施した「地域情報通信基盤整備推進事業」により、これまで民間事業者による整備が見込めなかった地域へ光ファイバー通信網を整備したことによって、通信環境が向上したためと考えられる。	光ファイバー通信網の整備は、従来民間事業者が行ってきた。左記事業の対象外となっている民間事業者の整備計画地域内において、一部未整備の地域があるため、市内全域で光ファイバー通信が利用可能となるよう、民間事業者に対して引き続き整備の要請をする。
			教育委員会(生涯学習課)				生涯学習計画で情報教育推進並びに地域情報化の拠点は登米市視聴覚センターが担当し、ICT関連講習会等は、年々充実してきている。 また、視聴覚センターのサーバーを活用し、生涯学習施設のみならず市内小中学校ホームページの配信によるものと考えられる。	生涯学習の中のICTが占める領域は、今後飛躍的に拡大していくものと推測され、こうした生涯学習の形態に対応すべく、研修会・講習会のより一層の充実を図る。 特に、ホームページ作成講習会は、総合型地域スポーツクラブのホームページ配信の実績があり、このような手法を用いて、今後とも生涯学習施設の情報発信に必要な手段の構築を図る。
豊かな心と個性を育むふれあいのまちづくり	34 幼児教育の充実	・教育内容の充実 ・教育環境の整備、充実	教育委員会(学校教育課)	2.61	2.49	0.12	園行事の充実及び預かり保育の拡大のほか、幼稚園教育に対する理解が得られたと考えられる。	生活体験の充実、課題発見・課題解決能力育成のための遊び(外遊び)の実践、小学校との交流学習、教職員の研修の充実を図る。
	35 小・中学校教育の充実	・小・中学校学習指導の推進 ・生徒指導の充実	教育委員会(学校教育課)	2.66	2.47	0.19	平成21年度まで見られた問題行動が、各中学校の取り組みによりその発生数が大きく減少したこと、また学習状況調査の結果を考察しながら取り組んだ学習指導が評価されたものと考えられる。	サイクル学習(登米っ子学習)、ワークショップ型校内研修の充実、調査票を使用した居心地のよい学級集団づくり、心のケアの充実、保幼小連携、小中一貫教育の推進、教職員の研修による資質向上を図る。
	36 小・中学校施設の整備	・学校教育施設の適正配置 ・学校教育施設の耐震補強、大規模改造	教育委員会(教育総務課)	2.59	2.55	0.04	東日本大震災により、ほとんどの学校施設に被害があったが、耐震補強工事が完了していたために、甚大な被害に至らない施設が多かったことが評価されたと考えられる。	今後も計画に基づく学校施設の整備に努め、児童生徒が安全に学習活動が行える環境の整備を図る。
	37 生涯学習の充実	・生涯学習機会の充実 ・生涯学習施設の整備、充実 ・地域における人材の育成	教育委員会(生涯学習課)	2.60	2.50	0.10	各教育事務所を中軸として生涯学習の充実を目指しているが、市民ニーズの多様化に対応できたためと考えられる。	市民の情報発信を的確に捉え、学習メニューの工夫を図る。
	38 スポーツ・レクリエーションの振興	・生涯スポーツの推進 ・競技力の向上事業 ・社会体育施設の管理運営	教育委員会(生涯学習課)	2.69	2.63	0.06	競技力の向上のための施設・環境整備は、まだ十分整備されていないが、生涯スポーツの振興のための総合型地域スポーツクラブが全地域に設立されることとなったためと考えられる。	体育協会がNPO法人化したことを受け、組織体制を確立し、さらなる競技力の向上を図る。またスポーツクラブ連絡協議会にて、クラブ相互の連携を図り、市としての生涯スポーツ振興を推進する。
	39 青少年の健全育成	・青少年関係団体への支援 ・家庭・地域・学校の連携 ・地域社会で活動する機会の拡大	教育委員会(生涯学習課)	2.57	2.47	0.10	家庭、地域、学校等の連携のもとに、地域社会で活動する機会の拡大を図りながら、地域ぐるみで青少年の「心の教育」に取り組むための環境づくりの支援事業及び青少年の活動の場として、文化施設・体育施設・公民館等の有効活用を図りながら、青少年組織の育成を支援したことによるものと考えられる。	家庭、地域、学校等の連携のもとに、地域社会で活動する機会の拡大を図りながら、地域ぐるみで青少年の「心の教育」に取り組むための環境づくりの支援事業の推進。 青少年の活動の場として、文化施設・体育施設・公民館等の有効活用を図りながら、青少年組織の育成を支援する。
	40 地域間交流や国際交流の推進	・地域間交流の推進 ・国際交流の推進 ・青少年国際交流事業の実施	企画部(市民活動支援課)	2.56	2.53	0.03	外国人相談窓口の設置により、市内在住外国人のニーズに対応する体制が構築されたためと考えられる。	市や市国際交流協会の組織力強化を図り、外国人が快適に生活できる環境を整備する。姉妹都市や郷土出身者に対しては、登米市の魅力や情報等の積極的な提供を行う。
			教育委員会(生涯学習課)				主に市青少年海外派遣受入事業が定着化してきたためと考えられる。	青少年の国際感覚を醸成するため、派遣先を友好コースと英語力向上を図るためのジュニア大使コースとし、事業への参加を希望する青少年がその目的により選択できるようにする。 一方、受入れについても、来市する海外青少年が快適な中で滞在できるように、市国際交流協会と連携を図る。
41 文化・芸術活動の推進	・心を拓く文化・芸術活動の推進 ・文化・芸術施設の充実、整備	教育委員会(生涯学習課)	2.59	2.54	0.05	文化・芸術を鑑賞する機会や発表する機会を創出し、文化協会など文化団体が行う文化振興活動の支援を行ってきたことによるものと考えられる。	文化・芸術を鑑賞する機会や発表する機会の創出とともに、文化協会が行う文化振興活動を支援する。	
42 文化財等の保護・継承	・文化財等の保護・継承 ・文化財保護施設の整備	教育委員会(生涯学習課)	2.66	2.63	0.03	博物館での展示等や広報活動により、市民に市内文化財が認識されたこと。また、教育資料館等の指定文化財となっている施設を利用し、文化財活用による観光誘致を図ったことなどが要因と考えられる。	指定文化財の広報紹介や博物館での展示等で、市民に市内文化財を周知する。 教育資料館等の指定文化財となっている施設を利用し、文化財活用による観光誘致を図る。	

まちづくりの基本方向	項目	項目の説明	関係課	今回	前回(H20)	比較	満足度が前回調査と比較して前回より上回った要因、または下回った要因	満足度を向上させるための取り組み(施策及び対策)
市民の創造力を生かした協働のまちづくり	43 市政への市民参加	・市民だれもがまちづくりに参加しやすい環境の整備	企画部(市民活動支援課)	2.42	2.34	0.08	コミュニティ組織等を対象にした意見交換会やシンポジウムなどの開催を通じて、市で進めている「市民参加」の意義が浸透してきていると考えられる。	地域の課題解決のための話し合いを進め、具体的な行動計画や約束事の整理を行う。市民と行政との「つなぎ役」としての中間支援組織の育成を図る。
	44 市政に関する情報提供	・広報・公聴活動の充実	総務部(市長公室)	2.61	2.51	0.10	平成21年度にホームページ更新システムを変更し、ページ更新作業の迅速化を図ったことや、平成22年4月開局のコミュニティFMを活用した市政情報放送の実施など、迅速かつ多様な手段による情報提供が評価されたものと考えられる。	広報活動においては、広報紙、ホームページ、メール配信、コミュニティFMなど複数の情報提供手段を状況に応じて組み合わせ、より効果的でより伝達率の高い広報スタイルを構築していく。 広報活動においては、関係部署との横の連携を強化し、市長へのメールや提言箱、パブリックコメントなどで寄せられた意見の検証や事務事業の改善などに的確、かつ確実に取り組む。
		・情報公開の推進	総務部(総務課)				情報公開制度においては、開示請求者が意図する情報を迅速かつ的確に把握できるよう努めたことによるものと考えられる。	保有すべき公文書が存在しないという事態が生じないよう、公文書の管理の徹底を図るため、各課等の文書取扱主任を通じ、関連する例規の規定を遵守するよう周知する。
	45 男女共同参画社会の推進	・男女共同参画の環境づくり ・男女共同参画の推進	企画部(市民活動支援課)	2.56	2.49	0.07	男女共同参画推進条例の施行に向けて開催したタウンミーティングやフォーラム、出前講座により、より多くの市民にその趣旨が浸透してきたものと考えられる。	第2次男女共同参画基本計画に基づいた各種事業を計画的かつ総合的に展開するとともに、男女共同参画支援員による意識啓発を推進することにより、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの充実を図る。
	46 地域の自治・コミュニティ活動の推進	・個性的で魅力的な地域づくりの支援	企画部(市民活動支援課)	2.63	2.56	0.07	公民館の指定管理が進み、地域に根ざした事業への取り組みが実施され、地域コミュニティ活動の充実を図ったことが要因として考えられる。	地域の課題解決のための話し合いを進め、具体的な行動計画や約束事の整理を行い、個性的で魅力的な地域づくりに取り組む。
		・地域コミュニティ活動の充実	教育委員会(生涯学習課)				公民館施設等の自主運営化に向けた地域コミュニティ再編により、組織の充実度が高まったためと考えられる。	市全域による公民館等の自主運営に向けた地域コミュニティ再編による組織の強化に取り組む。
	47 調和と均衡ある地域の発展	・地域ごとのまちづくりの推進	企画部(市民活動支援課)	2.52	2.44	0.08	コミュニティ組織等を対象にした意見交換会やシンポジウムなどの開催を通じて、地域ごとの計画づくりの意義が浸透してきたものと考えられる	地域の課題解決や地域資源を生かした地域活性化のための話し合いを進め、具体的な行動計画や約束事の整理とその実現に取り組む。
・地域審議会の充実		企画部(市民活動支援課)	地域審議会の取組状況は、地域によって様々であるが、審議会によっては積極的に意見が出されたためと考えられる。				地域の課題解決や地域資源を生かす地域活性化について話し合い、約束事を整理し具体的な行動計画を立案するなど、その実現に向けて取り組む。	
48 行財政改革の推進	・行政組織の適正化 ・行政サービスの向上 ・効率的な財政運営	企画部(企画政策課、財政課)	2.38	2.19	0.19	行財政改革大綱に基づき、事務事業の見直し、定員管理制度の導入及び組織機構の簡素合理化や枠配分方式の予算編成など、効率的な予算執行を推進してきたことが評価されたと考えられる。	厳しい財政状況の中、行政サービスを効果的に展開していくためには、さらなる事務事業の効率化や経常経費削減による財源の確保など、不断の行政改革を進める。 また、地方債の新規発行を抑制し、高水準で推移している地方債現在高を減少させることにより将来の負担軽減を図る。	
49 市政運営での連携の推進	・市民、地域と行政の円滑な連携	企画部(市民活動支援課)	2.40	—	—		市政への市民参加、男女共同参画社会の形成、コミュニティ活動の充実や地域ごとのまちづくりを推進する中で、市民、地域と行政が連携することを意識した事業展開を図る。 また、まちづくりを担う人材の育成、コミュニティ組織等による地域の計画づくり、市民と行政との「つなぎ役」としての中間支援組織の育成を図る。	

【登米市の暮らしやすさ】

問2 総合的に見て、登米市は暮らしやすいまちですか？

「まあまあ暮らしやすい」をあげている回答者が1,661人（回答者全体の46%）と回答者の約5割を占めており、これに「暮らしやすい」の616人（同17%）、「あまり暮らしやすいとはいえない」の500人（同約14%）が続いている。

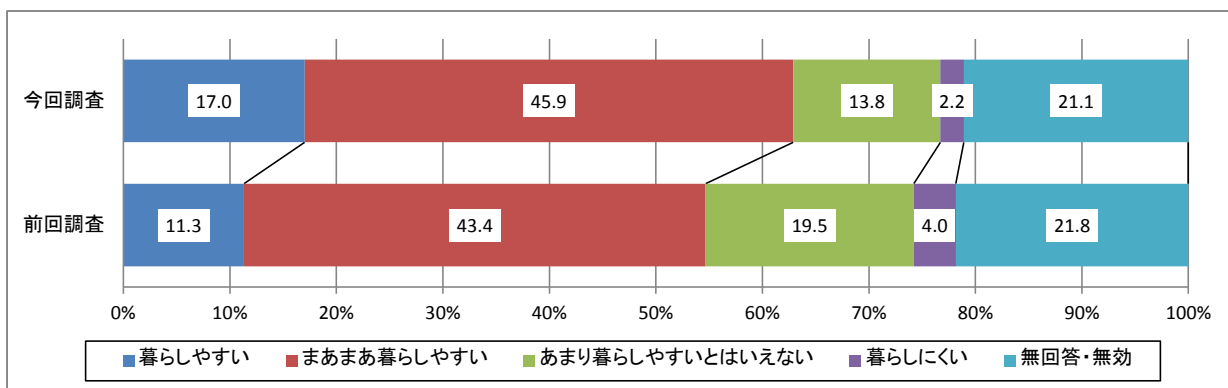
前回の調査と比べると、「暮らしやすい」をあげている回答者の割合が5.7ポイント増加し、「あまり暮らしやすいとはいえない」が5.7ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 暮らしやすい	616	17.0	454	11.3	162	5.7
2 まあまあ暮らしやすい	1,661	45.9	1,738	43.4	-77	2.5
3 あまり暮らしやすいとはいえない	500	13.8	783	19.5	-283	-5.7
4 暮らしにくい	80	2.2	159	4.0	-79	-1.8
無回答・無効	763	21.1	875	21.8	-112	-0.7
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0
点数		2.98		2.79		0.19

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。

※表中「点数」は、下記により算出している。

$$\text{点数} = \frac{\text{「暮らしやすい」(票数)} \times 4 \text{点} + \text{「まあまあ暮らしやすい」(票数)} \times 3 \text{点} + \text{「あまり暮らしやすいとはいえない」(票数)} \times 2 \text{点} + \text{「暮らしにくい」(票数)} \times 1 \text{点}}{\text{回答総数(票数)} \text{ ※無回答、無効を除く}}$$



【定住意向】

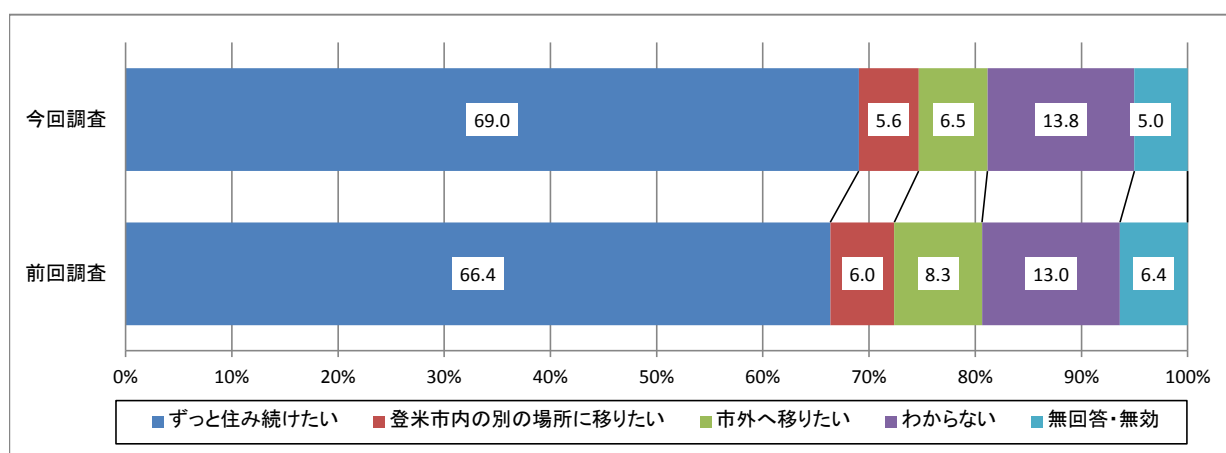
問3 あなたは、今後も現在お住まいの場所に住み続けたいですか？

「ずっと住み続けたい」をあげている回答者が2,499人（回答者全体の69%）を占めており、これに「わからない」の500人（同約14%）、「市外へ移りたい」の235人（同約7%）、「登米市内の別の場所へ移りたい」の204人（同約6%）が続いている。

前回の調査と比べると、「ずっと住み続けたい」をあげている回答者が2.7ポイント増加し、「市外へ移りたい」をあげている回答者が1.8ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 ずっと住み続けたい	2,499	69.0	2,660	66.4	-161	2.6
2 登米市内の別の場所に移りたい	204	5.6	241	6.0	-37	-0.4
3 市外へ移りたい	235	6.5	332	8.3	-97	-1.8
4 わからない	500	13.8	520	13.0	-20	0.8
無回答・無効	182	5.0	256	6.4	-74	-1.4
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



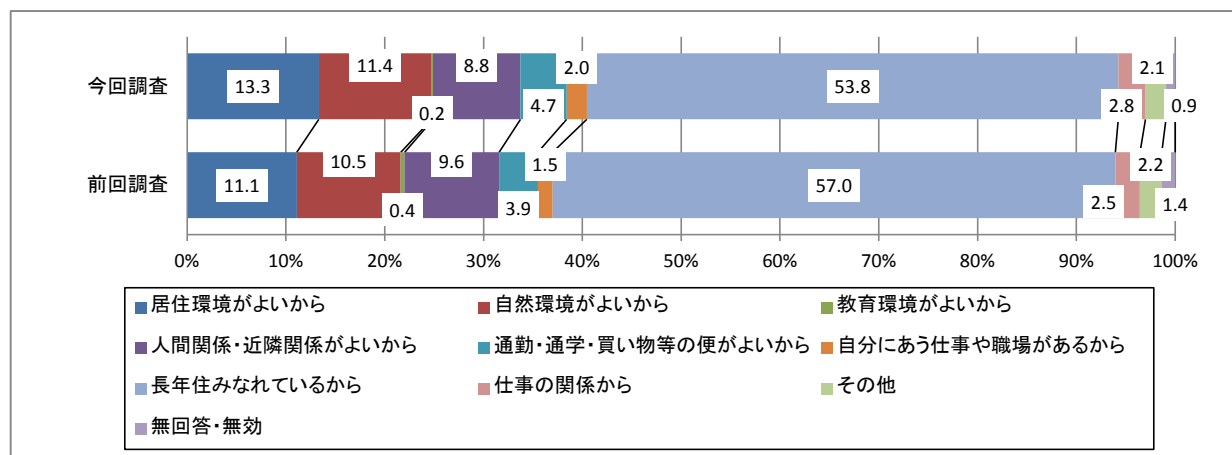
【定住したい理由】

問4 問3で「1. ずっと住み続けたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

「長年住みなれているから」をあげている回答者が1,344人（回答者全体の約54%）と最も多く、これに「居住環境がよいから」の333人（同約13%）、「自然環境がよいから」の285人（同約11%）が続いている。
 前回の調査と比べると、「住環境がよいから」をあげている回答者が2.2ポイント増加し、「長年住み慣れているから」をあげている回答者が3.2ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 居住環境がよいから	333	13.3	295	11.1	38	2.2
2 自然環境がよいから	285	11.4	280	10.5	5	0.9
3 教育環境がよいから	4	0.2	10	0.4	-6	-0.2
4 人間関係・近隣関係がよいから	221	8.8	255	9.6	-34	-0.8
5 通勤・通学・買い物等の便がよいから	117	4.7	104	3.9	13	0.8
6 自分にあう仕事や職場があるから	51	2.0	40	1.5	11	0.5
7 長年住みなれているから	1,344	53.8	1,515	57.0	-171	-3.2
8 仕事の関係から	69	2.8	66	2.5	3	0.3
9 その他	52	2.1	59	2.2	-7	-0.1
無回答・無効	23	0.9	36	1.4	-13	-0.4
計	2,499	100.0	2,660	100.0	-161	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



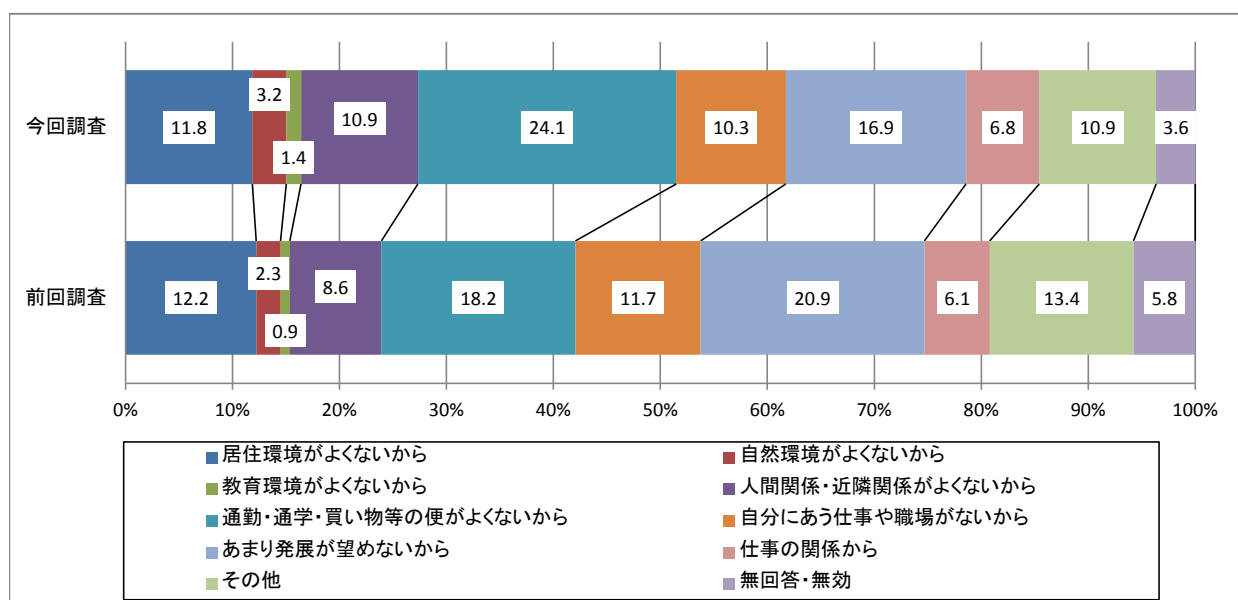
【転居したい理由】

問5 問3で「2. 登米市内の別の場所に移りたい」「3. 市外へ移りたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか。一番大きい理由を次の中から選んでください。

「通勤・通学・買い物等の便がよくないから」をあげている回答者が106人（回答者全体の約24％）で最も多く、これに「あまり発展が望めないから」の74人（同約17％）が続いている。前回の調査と比べると、「通勤・通学・買い物等の便がよくないから」をあげている回答者の割合が6ポイント増加しており、「あまり発展が望めないから」をあげている回答者の割合が約4ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （％）	回答数 （票）	構成比 （％）	回答数 （票）	構成比 （％）
1 居住環境がよくないから	52	11.8	70	12.2	-18	-0.4
2 自然環境がよくないから	14	3.2	13	2.3	1	0.9
3 教育環境がよくないから	6	1.4	5	0.9	1	0.5
4 人間関係・近隣関係がよくないから	48	10.9	49	8.6	-1	2.3
5 通勤・通学・買い物等の便がよくないから	106	24.1	104	18.2	2	5.9
6 自分にあう仕事や職場がないから	45	10.3	67	11.7	-22	-1.4
7 あまり発展が望めないから	74	16.9	120	20.9	-46	-4.0
8 仕事の関係から	30	6.8	35	6.1	-5	0.7
9 その他	48	10.9	77	13.4	-29	-2.5
無回答・無効	16	3.6	33	5.8	-17	-2.1
計	439	100.0	573	100.0	-134	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



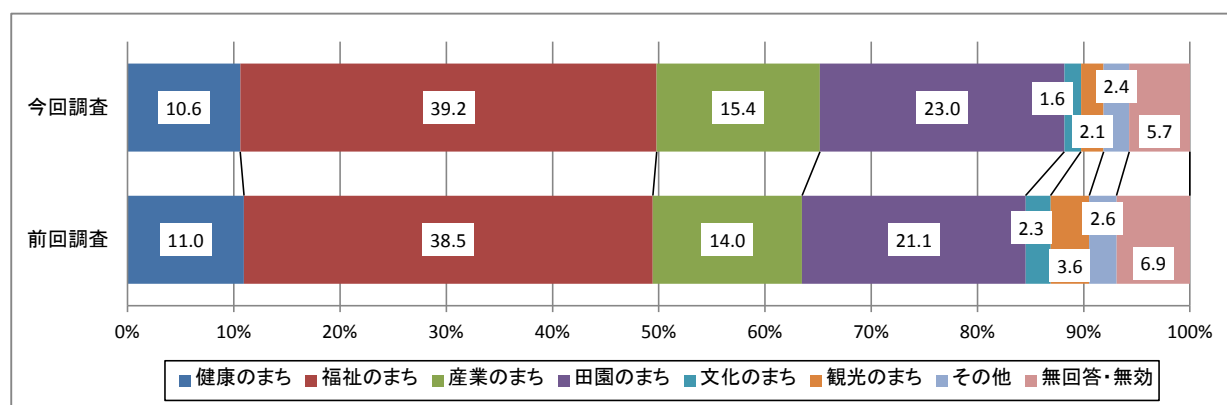
【登米市の将来イメージ】

問6 あなたは登米市の将来イメージとして次のどれが最も望ましいと思いますか？

「福祉のまち」をあげている回答者が1,419人（回答者全体の約39%）で最も多く、これに「田園のまち」の833人（同23%）、「産業のまち」の556人（同約15%）が続いている。
 前回の調査と比べると、「田園のまち」をあげている回答者の割合が2ポイント増加し、「観光のまち」をあげている回答者の割合が1.5ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 健康のまち	384	10.6	439	11.0	-55	-0.4
2 福祉のまち	<u>1,419</u>	<u>39.2</u>	<u>1,543</u>	<u>38.5</u>	-124	0.7
3 産業のまち	556	15.4	563	14.0	-7	1.4
4 田園のまち	<u>833</u>	<u>23.0</u>	<u>844</u>	<u>21.1</u>	-11	1.9
5 文化のまち	57	1.6	94	2.3	-37	-0.7
6 観光のまち	77	2.1	146	3.6	-69	-1.5
7 その他	87	2.4	103	2.6	-16	-0.2
無回答・無効	207	5.7	277	6.9	-70	-1.2
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【地域発展に向けた重点施策】

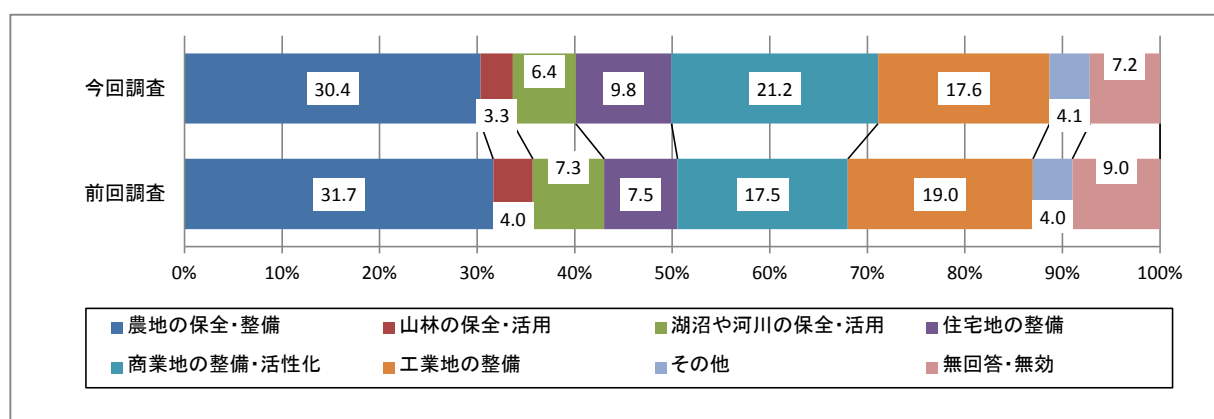
問7 登米市の発展に向けて、今後、何を最も重点的に進めていくべきだと思いますか？

登米市の基幹産業である「農地の保全・整備」をあげている回答者が1,099人（回答者全体の約30%）で最も多く、これに「商業地の整備・活性化」の767人（同約21%）、「工業地の整備」の636人（同約18%）が続いている。

前回の調査と比べると、「商業地の整備・活性化」をあげている回答者の割合が3.7ポイント増加しており、「工業地の整備」をあげている回答者の割合が1.4ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 農地の保全・整備	1,099	30.4	1,269	31.7	-170	-1.3
2 山林の保全・活用	120	3.3	162	4.0	-42	-0.7
3 湖沼や河川の保全・活用	233	6.4	294	7.3	-61	-0.9
4 住宅地の整備	355	9.8	301	7.5	54	2.3
5 商業地の整備・活性化	767	21.2	700	17.5	67	3.7
6 工業地の整備	636	17.6	761	19.0	-125	-1.4
7 その他	150	4.1	162	4.0	-12	0.1
無回答・無効	260	7.2	360	9.0	-100	-1.8
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【都市整備や市街地開発の方向】

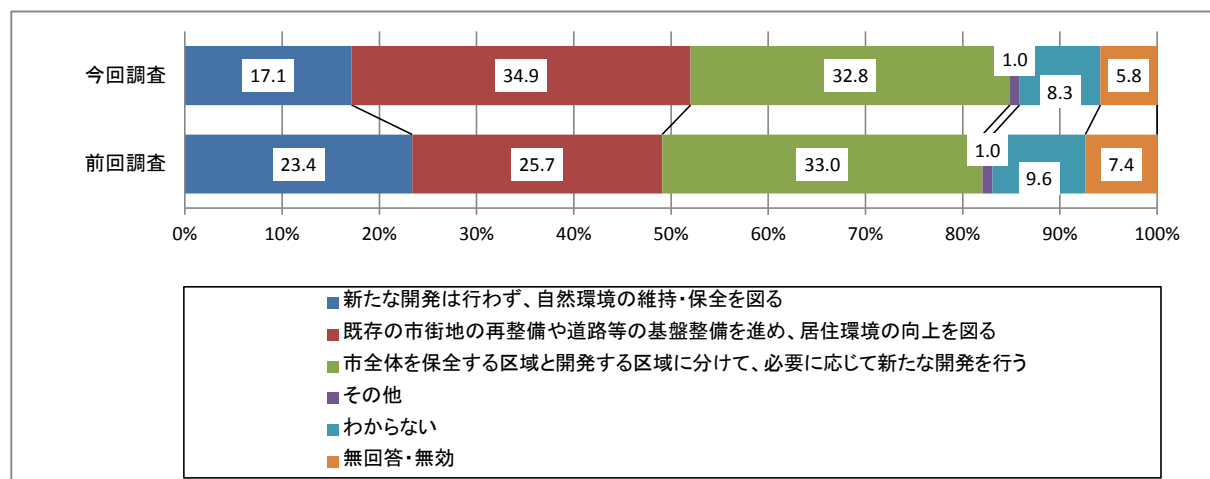
問8 今後の都市整備や市街地の開発は、どのように考えていくべきだと思いますか？

「既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る」をあげている回答者が1,263人（回答者全体の約35%）で最も多く、これに「市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う」の1,189人（同約33%）、「新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る」の620人（同約17%）が続いている。

前回の調査と比べると、「既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る」をあげている回答者の割合が約9ポイント増加しており、「新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る」をあげている回答者の割合が約6ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 新たな開発は行わず、自然環境の維持・保全を図る	620	17.1	937	23.4	-317	-6.3
2 既存の市街地の再整備や道路等の基盤整備を進め、居住環境の向上を図る	1,263	34.9	1,031	25.7	232	9.2
3 市全体を保全する区域と開発する区域に分けて、必要に応じて新たな開発を行う	1,189	32.8	1,321	33.0	-132	-0.2
4 その他	36	1.0	41	1.0	-5	0.0
5 わからない	301	8.3	384	9.6	-83	-1.3
無回答・無効	211	5.8	295	7.4	-84	-1.6
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【農地のあり方】

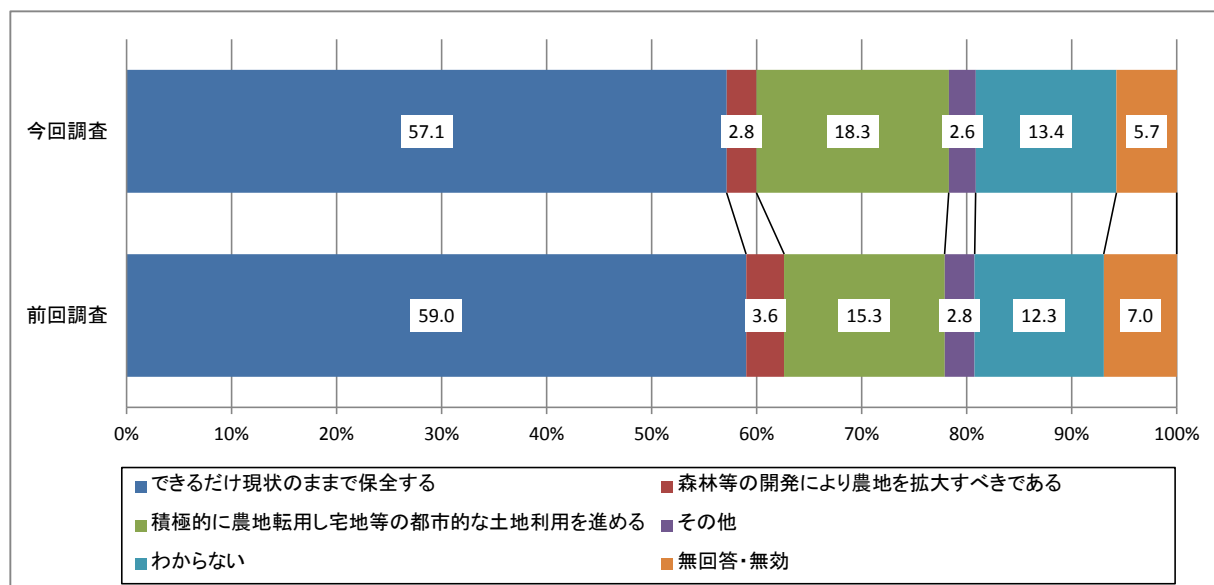
問9 将来の農地(田・畑)のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が2,068人(回答者全体の約57%)と回答者の大半を占めており、これに「積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」の663人(同約18%)、「わからない」の485人(同約13%)が続いており、「森林等の開発により農地を拡大すべきである」は103人(同約3%)にとどまっている。

前回の調査と比べると、「積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める」をあげている回答者の割合が3ポイント増加しており、「できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者の割合が約2ポイント減少している。

	今回調査		前回(平成20年)調査		比較	
	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)	回答数 (票)	構成比 (%)
1 できるだけ現状のままで保全する	2,068	57.1	2,365	59.0	-297	-1.9
2 森林等の開発により農地を拡大すべきである	103	2.8	145	3.6	-42	-0.8
3 積極的に農地転用し宅地等の都市的な土地利用を進める	663	18.3	613	15.3	50	3.0
4 その他	93	2.6	114	2.8	-21	-0.3
5 わからない	485	13.4	493	12.3	-8	1.1
無回答・無効	208	5.7	279	7.0	-71	-1.2
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目(上位3項目)を表している。



【山林のあり方】

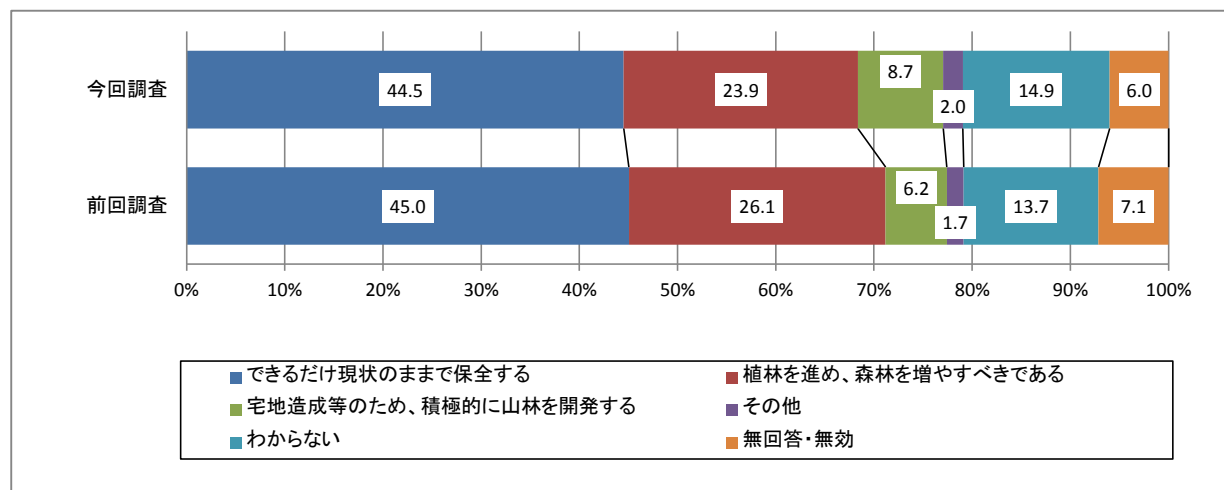
問10 将来の山林のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「できるだけ現状のままで保全する」をあげている回答者が1,611人（回答者全体の約45%）で最も多く、これに「植林を進め、森林を増やすべきである」の864人（同約24%）、「わからない」の541人（同約15%）が続いている。

前回の調査と比べると、「宅地造成等のため、積極的に山林を開発する」をあげている回答者の割合が約2ポイント増加しており、「植林を進め、森林を増やすべきである」をあげている回答者の割合が約2ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 できるだけ現状のままで保全する	1,611	44.5	1,806	45.0	-195	-0.5
2 植林を進め、森林を増やすべきである	864	23.9	1,048	26.1	-184	-2.2
3 宅地造成等のため、積極的に山林を開発する	314	8.7	250	6.2	64	2.5
4 その他	73	2.0	69	1.7	4	0.3
5 わからない	541	14.9	550	13.7	-9	1.2
無回答・無効	217	6.0	286	7.1	-69	-1.1
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【住宅地のあり方】

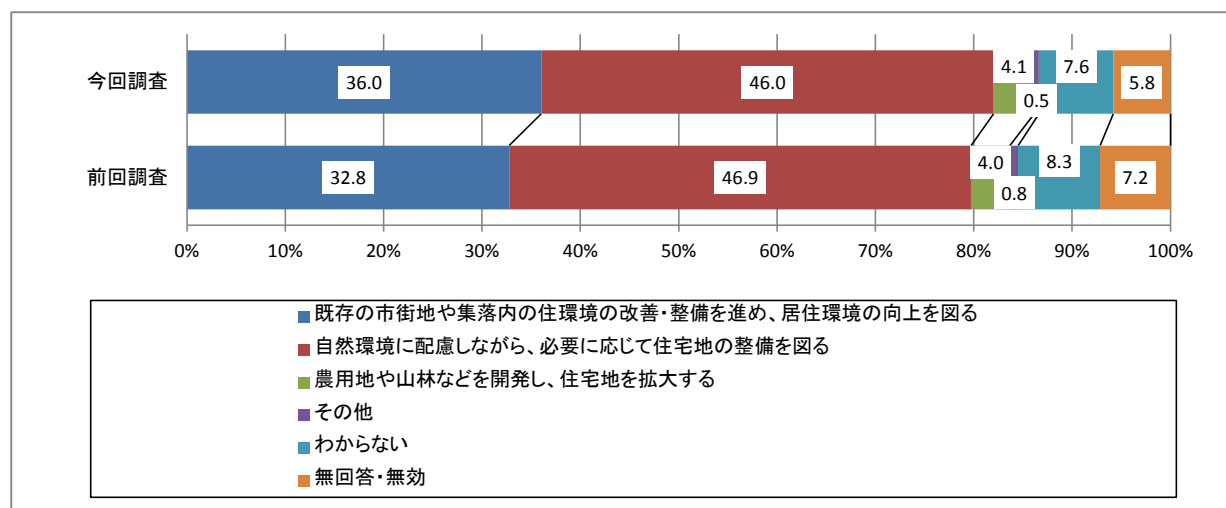
問11 将来の住宅地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る」をあげている回答者が1,665人（回答者全体の46%）と最も多く、これに「既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の整備を図る」の1,304人（同36%）、「わからない」の274人（同約8%）が続いている。

前回の調査と比べると、「既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の整備を図る」をあげている回答者の割合が約3ポイント増加しており、「自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る」をあげている回答者の割合が約1ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 既存の市街地や集落内の住環境の改善・整備を進め、居住環境の向上を図る	1,304	36.0	1,314	32.8	-10	3.2
2 自然環境に配慮しながら、必要に応じて住宅地の整備を図る	1,665	46.0	1,882	46.9	-217	-0.9
3 農用地や山林などを開発し、住宅地を拡大する	149	4.1	159	4.0	-10	0.1
4 その他	18	0.5	33	0.8	-15	-0.3
5 わからない	274	7.6	334	8.3	-60	-0.8
無回答・無効	210	5.8	287	7.2	-77	-1.4
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【商業地のあり方】

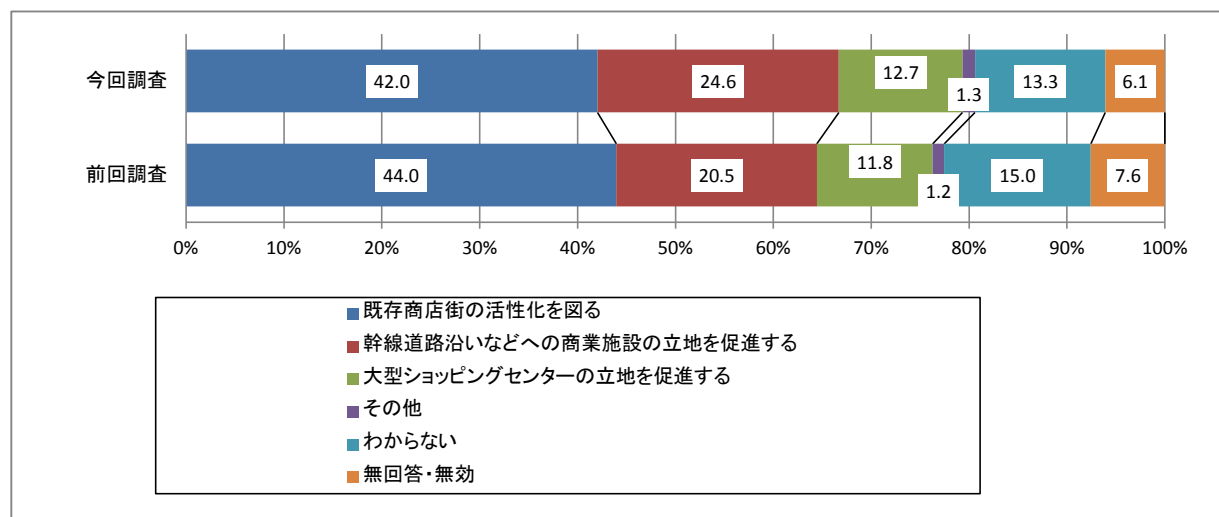
問12 将来の商業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「既存商店街の活性化を図る」をあげている回答者が1,522人（回答者全体の42%）で最も多く、これに「幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する」の892人（同約25%）、「わからない」の482人（同約13%）が続いている。

前回の調査と比べると、「幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する」をあげている回答者の割合が約4ポイント増加しており、「既存商店街の活性化を図る」をあげている回答者の割合が約2ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 既存商店街の活性化を図る	1,522	42.0	1,762	44.0	-240	-2.0
2 幹線道路沿いなどへの商業施設の立地を促進する	892	24.6	822	20.5	70	4.1
3 大型ショッピングセンターの立地を促進する	458	12.7	474	11.8	-16	0.9
4 その他	46	1.3	47	1.2	-1	0.1
5 わからない	482	13.3	601	15.0	-119	-1.7
無回答・無効	220	6.1	303	7.6	-83	-1.5
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【工業地のあり方】

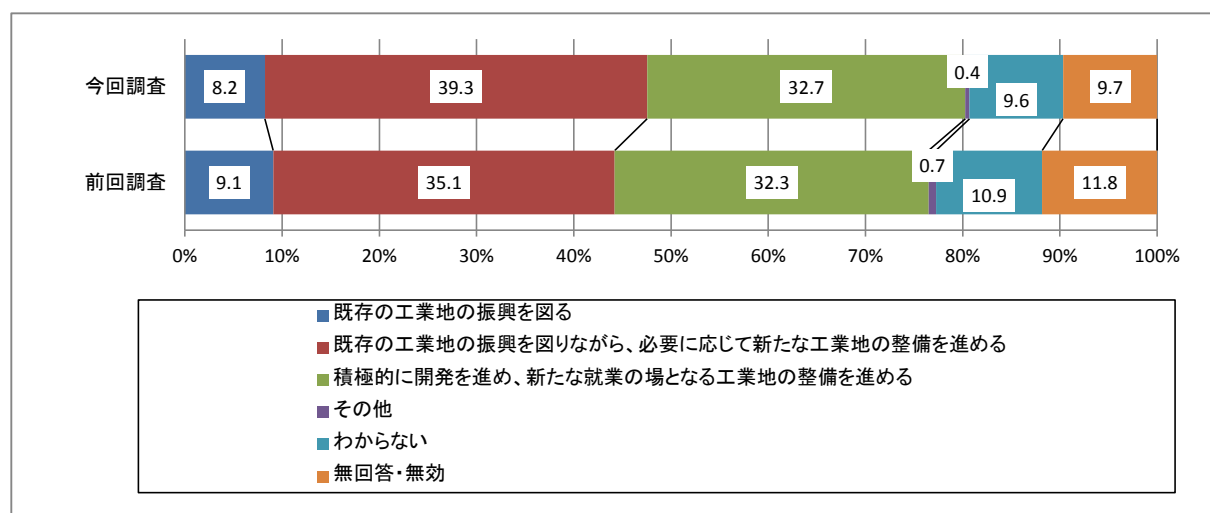
問13 将来の工業地のあり方について、どのような方向が望ましいと思いますか？

「既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」を挙げている回答者が1,423人（回答者全体の約40%）で最も多く、「積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める」の1,185人（同約33%）が続いている。

前回の調査と比べると、「既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める」をあげている回答者の割合が、約4ポイント増加している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 既存の工業地の振興を図る	298	8.2	364	9.1	-66	-0.9
2 既存の工業地の振興を図りながら、必要に応じて新たな工業地の整備を進める	1,423	39.3	1,408	35.1	15	4.2
3 積極的に開発を進め、新たな就業の場となる工業地の整備を進める	1,185	32.7	1,295	32.3	-110	0.4
4 その他	15	0.4	30	0.7	-15	-0.3
5 わからない	349	9.6	438	10.9	-89	-1.3
無回答・無効	350	9.7	474	11.8	-124	-2.1
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。

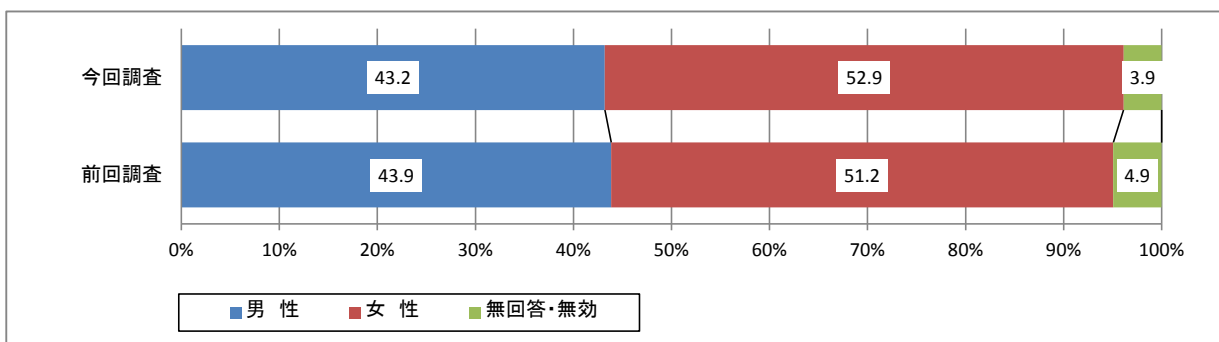


【性別】

問14 あなたの性別は？

「男性」の回答者が1,564人（回答者全体の約43%）、「女性」の回答者が1,916人（同約53%）で、女性の回答者が男性の回答者よりも352人多くなっている。
 前回の調査と比べると、女性の割合が約2ポイント増加している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 男性	1,564	43.2	1,758	43.9	-194	-0.7
2 女性	1,916	52.9	2,053	51.2	-137	1.7
無回答・無効	140	3.9	198	4.9	-58	-1.0
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0



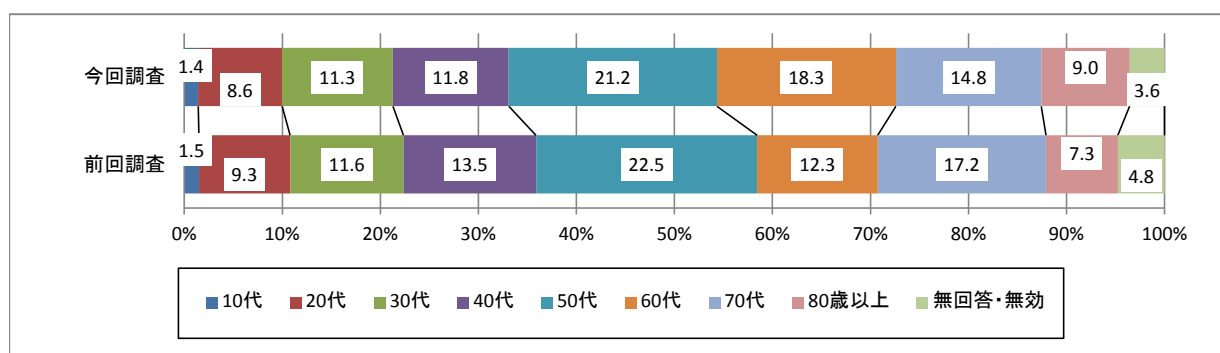
【年 代】

問15 あなたの年齢は？

「50代」の回答者が769人（回答者全体の約21%）で最も多く、これに「60代」の661人（同約18%）、「70代」の537人（同約15%）が続いている。
 前回の調査と比べると、「60代」が6ポイント増加し、「70代」が約2ポイント減少している。

	今 回 調 査		前 回（平 成 20 年）調 査		比 較	
	回 答 数 （ 票 ）	構 成 比 （ % ）	回 答 数 （ 票 ）	構 成 比 （ % ）	回 答 数 （ 票 ）	構 成 比 （ % ）
1 10代	51	1.4	60	1.5	-9	-0.1
2 20代	310	8.6	373	9.3	-63	-0.7
3 30代	409	11.3	464	11.6	-55	-0.3
4 40代	428	11.8	<u>542</u>	<u>13.5</u>	-114	-1.7
5 50代	<u>769</u>	<u>21.2</u>	<u>904</u>	<u>22.5</u>	-135	-1.3
6 60代	<u>661</u>	<u>18.3</u>	493	12.3	168	6.0
7 70代	<u>537</u>	<u>14.8</u>	<u>688</u>	<u>17.2</u>	-151	-2.3
8 80歳以上	326	9.0	294	7.3	32	1.7
無回答・無効	129	3.6	191	4.8	-62	-1.2
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



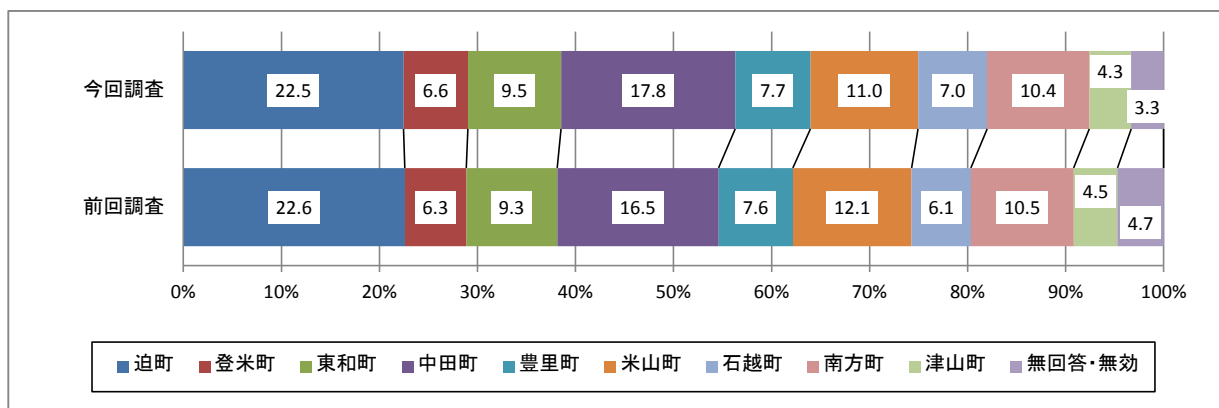
【居住地】

問16 あなたの住んでいる地区は？

「迫町」の回答者が813人（回答者全体の約23%）で最も多く、これに「中田町」の643人（同約18%）、「米山町」の397人（同約11%）が続いている。（旧町域の人口分布比率に基づき調査票を配付しており、おおむね配布比率に相当した回収結果となっている。）
 前回の調査と比べると、「中田町」の回答者の割合が1.3ポイント増加しており、「米山町」の回答者の割合が1.1ポイント減少している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 迫町	813	22.5	906	22.6	-93	-0.1
2 登米町	238	6.6	251	6.3	-13	0.3
3 東和町	344	9.5	372	9.3	-28	0.2
4 中田町	643	17.8	660	16.5	-17	1.3
5 豊里町	278	7.7	304	7.6	-26	0.1
6 米山町	397	11.0	485	12.1	-88	-1.1
7 石越町	255	7.0	243	6.1	12	1.0
8 南方町	378	10.4	420	10.5	-42	0.0
9 津山町	154	4.3	179	4.5	-25	-0.2
無回答・無効	120	3.3	189	4.7	-69	-1.4
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【職業】

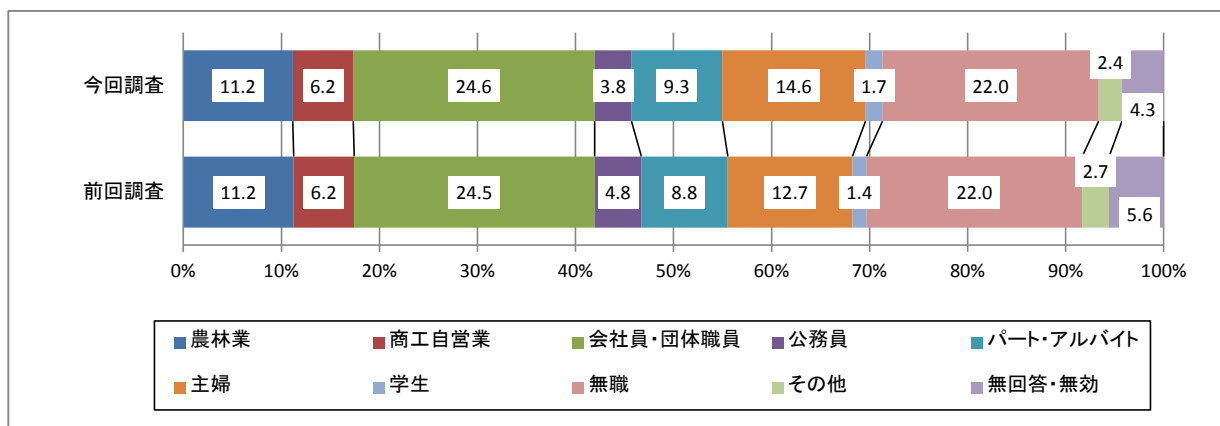
問17 あなたの職業は？

「会社員・団体職員」の回答者が892人（回答者全体の約25%）で最も多く、これに「無職」の798人（同22%）、「主婦」の529人（同約15%）が続いている。

前回の調査と比べると、「主婦」の回答者の割合が1.9ポイント増加しているが、前回とおおむね同様の傾向となっている。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 農林業	404	11.2	451	11.2	-47	-0.1
2 商工自営業	223	6.2	247	6.2	-24	0.0
3 会社員・団体職員	<u>892</u>	<u>24.6</u>	<u>984</u>	<u>24.5</u>	-92	0.1
4 公務員	136	3.8	191	4.8	-55	-1.0
5 パート・アルバイト	335	9.3	353	8.8	-18	0.4
6 主婦	<u>529</u>	<u>14.6</u>	<u>510</u>	<u>12.7</u>	19	1.9
7 学生	63	1.7	58	1.4	5	0.3
8 無職	<u>798</u>	<u>22.0</u>	<u>882</u>	<u>22.0</u>	-84	0.0
9 その他	86	2.4	110	2.7	-24	-0.4
無回答・無効	154	4.3	223	5.6	-69	-1.3
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。



【通勤・通学先】

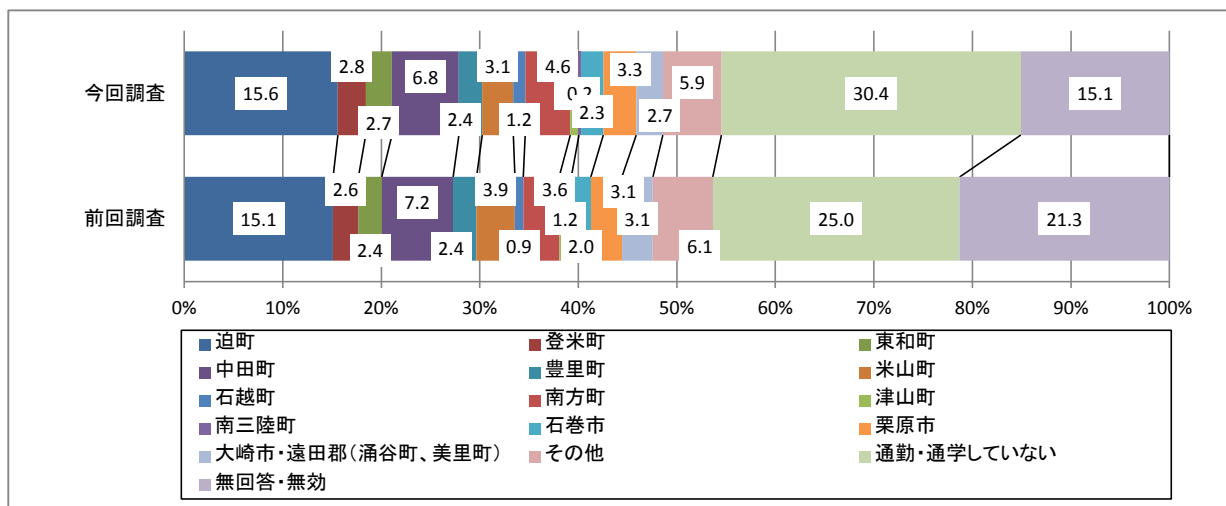
問18 あなたの通勤・通学先はどこですか？

「通勤・通学していない」をあげている回答者が1,100人（回答者全体の約30%）で最も多く、これに「迫町」の564人（同約16%）、「中田町」の246人（同約7%）が続いている。前回の調査と比べると、「通勤・通学していない」をあげる回答者の割合が約5ポイント増加している。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 迫町	564	15.6	605	15.1	-41	0.5
2 登米町	103	2.8	104	2.6	-1	0.2
3 東和町	96	2.7	95	2.4	1	0.3
4 中田町	246	6.8	290	7.2	-44	-0.4
5 豊里町	86	2.4	95	2.4	-9	0.0
6 米山町	114	3.1	156	3.9	-42	-0.8
7 石越町	44	1.2	35	0.9	9	0.3
8 南方町	165	4.6	146	3.6	19	1.0
9 津山町	32	0.9	49	1.2	-17	-0.3
10 南三陸町	8	0.2	—	—	—	—
11 石巻市	82	2.3	80	2.0	2	0.3
12 栗原市	121	3.3	126	3.1	-5	0.2
13 大崎市・遠田郡（涌谷町、美里町）	98	2.7	126	3.1	-28	-0.4
14 その他	215	5.9	244	6.1	-29	-0.2
15 通勤・通学していない	1,100	30.4	1,004	25.0	96	5.4
無回答・無効	546	15.1	854	21.3	-308	-6.2
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。

※回答番号10は、新規に調査した項目のため、前回の調査項目と比較するデータはない。



【居住経験】

問19 あなたの居住経験は？

「登米市に生まれてからずっと住んでいる」をあげている回答者が1,945人（回答者全体の約54%）と、回答者全体の半分以上を占めており、これに「登米市出身だが市外での居住経験がある」の846人（同約23%）、「県内の他市町村から転入してきた」の408人（同約11%）が続いている。

前回の調査と比べると、若干の増減があるものの、前回とおおむね同様の傾向となっている。

	今回調査		前回（平成20年）調査		比較	
	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）	回答数 （票）	構成比 （%）
1 登米市に生まれてからずっと住んでいる	1,945	53.7	2,145	53.5	-200	0.2
2 登米市出身だが市外での居住経験がある	846	23.4	947	23.6	-101	-0.2
3 県内の他市町村から転入してきた	408	11.3	415	10.4	-7	0.9
4 県外から転入してきた	180	5.0	183	4.6	-3	0.4
無回答・無効	241	6.7	319	8.0	-78	-1.3
計	3,620	100.0	4,009	100.0	-389	0.0

※表中の下線付き数字は、回答数の多い項目（上位3項目）を表している。

